

ティーチング・ポートフォリオ 2024(令和 6 年度)

山村学園短期大学子ども学科

教授 橋本 淳一

1. 教育の責任

私は子ども学科の教員として、子ども家庭福祉を主たる専門領域としながら、保育士資格や幼稚園教諭二種免許状取得に係る福祉、実習、教職等に関する科目を担当している。2023～2024 年度の担当科目は以下に示す表 1 のとおりである。

表 1. 2021～2022 年度の担当科目

科目名	開講年度	学期	対象学年	種別	受講者数	備考
子ども学ゼミナールⅠ	2023 2024	前期	2 年生	演習	13 名 10 名	5 ゼミ
キャリアアップセミナーⅢ・Ⅳ	2023 2024	半期	2 年生	演習	69 名 11 名	4 クラス合同 クラス別担当
社会福祉	2023 2024	前期	2 年生	講義	69 名 51 名	1 クラス
実習指導Ⅰ	2023 2024	前期	1 年生	演習	53 名 58 名	4 クラス ※教員 5 名
実習指導Ⅲ	2023 2024	前期	2 年生	演習	69 名 49 名	5 クラス ※教員 5 名
保育・教職実践演習（幼稚園）	2023 2024	後期	2 年生	演習	69 名 47 名	1 クラス ※教員 3 名
子ども家庭福祉	2023 2024	後期	1 年生	講義	53 名 58 名	1 クラス
教育方法・技術論	2023 2024	後期	1 年生	講義	69 名 58 名	1 クラス ※教員 2 名
実習指導Ⅱ	2023 2024	後期	1 年生	演習	69 名 58 名	4 クラス ※教員 4 名
保育実習Ⅱ	2023 2024	集中	2 年生	実習	16 名 11 名	*選択科目
ダイバーシティと教育・保育	2023 2024	後期	1・2 年生	演習	7 名 未確定	*選択科目

保育入門	2023 2024	後期	山村国際高 校 3 年生	演習	7 名 未確定	山村国際高校
------	--------------	----	-----------------	----	------------	--------

また、上述の担当科目に関連して、次のような学習の企画・運営を行っている。
(実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、キャリアアップセミナーⅡ(2022年)、キャリアアップセミナーⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ(2023年))

- ・「実習報告会」(全体会・シンポジウム・懇談会) (1・2年生)
- ・「学内就職説明会」(2年生)
- ・「就職体験報告会」(1年生)

(子ども学ゼミナールⅠ・Ⅱ)

子ども学ゼミナールⅠ・Ⅱの全体計画を策定し、ゼミナール実施要項及びゼミナール登録の手引きを作成し、ゼミナール関係の連絡、調整、企画及び実施調整を行っている。

- ①ゼミ生募集からゼミ配属までの連絡と調整
- ②ゼミナール学習成果発表会の企画・運営

【キャリア支援センター長として】

学生一人ひとりの将来に活かせる実際的な支援の実施を目標に、学生一人ひとりのキャリアアップを目指したきめ細かい指導、社会的自立(自律)を目指す指導、コミュニケーション能力の向上を目指す指導を行うべく、以下の職務、行事をセンターのメンバーとともに企画、運営している。

(1)センター長が中心となる主要な業務

- ・「キャリアサポートブック」の作成、「キャリア支援センター便り」の編集・発行、
- ・キャリアアップセミナー授業内の初年次教育及び進路ガイダンス、進路体験報告会・「進路講演会」(2023年度)・「学内就職説明会」等の企画・運営

(2) 初年次教育に関する業務

入学前教育と初年次教育の連続性を念頭に、入学前教育のプログラム作成(特に、課題及び担当者の配置)並びにキャリアアップセミナー内における初年次教育の総合プログラムの作成と実施を、学科並びに関係各委員会と連携して行っている。

(3)企画講座(資格取得を伴う)の実施

- ・認知症サポーター講習
- ・プレコンセプションケア・プログラム（学生支援委員会と共催）
- ・あいサポーター講習（2024 年から）
- ・視覚障がい者スマートフォンサポーター（2024 年から）

（４）その他の業務

求人受付・一覧作成・掲示、公務員対策講座の企画、、ハローワークとの連携、西部地区保育協議会との連携、全埼玉私立幼稚園連合会との連携、近隣幼稚園・保育園との連携、進路関係参考書の選択と配架、卒業生及び園長・施設長アンケート調査の実施と集計、社会福祉事業団の説明会や埼玉労働局の講演会の開催、キャリアサコンサルタントによる面談と講演の企画・調整・実施、卒業生の相談及び再就職支援 等

なお、2024 年は学生の免許・資格取得支援のため、本学の授業で取得可能または大学が支援できる免許資格の整理を行い、学生の免許・資格取得支援の充実を図っている。

令和 6 年度 キャリア支援センター 資格等取得支援一覧

	資格名等	資格認証団体	対象者等	試験日・受験料等	昨年資格 取得者数
1	ピアヘルパー	NPO 日本カウンセラー協会	全学生が取得可能 (指定 2 科目 4 単位)	試験日 12/7 (土) 受験料 4,800 円	8 名
2	ネイチャーゲームリーダー	公益社団法人日本シェアリングネイチャー協会	アウトドア演習 A 履修者	単位取得時 諸費用：5,890 円	7 名
3	キャンピングインストラクター	公益社団法人日本キャンピング協会	アウトドア演習 B	単位取得時 諸費用：15,300 円	1 名
4	L.S.F.A.-children's 認定	有限会社マスターワークス	乳児小児救命法 履修者	単位取得時 諸費用：4,000 円	34 名
5	准学校心理士	一般社団法人学校心理士認定運営機構・日本学校心理士会	全学生が取得可能 (指定 4 科目)	大学一括申請 (7/16-8/9) 諸費用：15,000 円	0 名
6	認知症サポーター講習	鳩山町社会福祉協議会	CUSⅡ (1 年生全員)	R7.1/9 講座受講(無料)	48 名
7	プレコンセプションケア・プログラム (出前講座)	一般社団法人埼玉県助産師会 埼玉県健康長寿課母子保健担当	CUSⅢ (2 年生全員)	7/15 講座受講時(無料)	61 名
8	あいサポーター講習	鳥取県社会福祉協議会	CUSⅠ・Ⅲ (全学生)	7/22・7/25 講習受講(無料)	新規
9	視覚障がい者スマートフォンサポーター講習	国立障害者リハビリテーションセンター	子ども学演習Ⅰ (1 年生全員)	7/8・15 講習受講時 (無料)	新規
10	保育 ICT 検定初級・コードモン検定	一般社団法人保育 ICT 推進協会	全学生	随時(オンデマンド学習・ 受験) (無料)	新規
11	地域子育て支援士 (二種)	NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会	全学年	8/29、9/28、11/26、/2/12 (Zoom 学習・受験) 費用：9,000	新規

1	社会福祉主事 (任用資格)	厚生労働省	保育士資格取得者のみ可能	卒業時	59 名
2	児童指導員 (任用資格)	厚生労働省	幼稚園等教員免許状 取得者のみ可能	卒業時	51 名
3	小学校教諭二種免許状	文部科学省 (連携校 星槎大学)	16 科目 30 単位取得	約 36 万円	新規
4	特別支援学校教諭二種免許状	文部科学省 (連携校 星槎大学)	10 科目 21 単位取得	約 23.5 万円	新規

【一般選抜試験作問作業部会長として】

令和 5 年度一般選抜試験問題は 2 科目（国語・数学（数学活用））+小論文となるが、令和 4 年度に一般選抜入試は行われなかったため、本年度は数学のみ新規作成した。例年の作業部会での業務は以下の通りとなる。

- ①作業部会開催日程の決定
- ②作問分担者の決定
- ③問題案の検討
- ④問題・正答及び採点基準・解答用紙の作成と確認

なお、最終確認は学長へ依頼する。

令和 6 年度入試においても、一般選抜は行われなかったため、前年作成問題の主体を行った。

【実習委員として】

本学の授業科目における学外実習の取扱いについては、学生の資格取得や就職要件等のための単位取得上きわめて重要な活動であるため、関係省庁の通達に留意しながら、教育実習Ⅰ・Ⅱ、保育実習・Ⅱ、施設実習Ⅰ・Ⅱの各実習が円滑に行われるよう、委員長及び委員会メンバー（各実習主担当者）とともに協議検討を重ねながら実習指導の充実を図った。

【入試広報委員として】

オープンキャンパスや SNS を使った情報発信、高校訪問、高校・会場ガイダンスの参加、広く入試制度の検討等、厳しい学生募集状況を踏まえて、委員長及び委員会メンバーと連絡調整を図りながら入試広報活動を進めた。

2. 教育の理念

私の教育の理念は、幼稚園教諭・保育士養成に携わって四半世紀を過ぎた今でも大学院を終えて教員を始めた頃と変わってはいない。簡明に言えば「自立と貢献」という言葉でそれは表すことができる。遥か半世紀前に自分自身が受けた教育の影響でもあると思われるが、今でもけっして色あせることはない。

今日の保育の学びでは、幼稚園教諭・保育士としての専門的な知識や技術の習得はもちろんのこと、なにより自分自身が一人の人間として、大人として自立していることと、子どもやその保護者だけでなくすべての他者に対してその存在を尊重し、

共感し、受容し、そして貢献・奉仕ができるようになること、そうした人間的成長もまた大切であるとされる。

そして、一人の人間として「自立」するということは、けっして一人で生きていくなどということではない。むしろ多くの他者との関わりの中で、素直な心と感謝の気持ちを忘れず、主体的に多様な人々と協働することができることを意味している。

また、「貢献」も単に社会や誰かのためになる何かをただ漠然とやるというのではなくて、むしろ辞書的な意味の通り、「物事や社会に力を尽くして、よい結果をもたらす」ことであり、いわば「貢献」は目の前にある事物に力を尽くすことから始まるのである。

「自立と貢献」そして「人間的成長」。いったいどうすれば学生がそれを実現できるのか。教員の立場から、褒めることで意欲を引き出したり、失敗を防ぐ手立てを考えたり、模範を示したり、ヒントを用意したりといろいろ模索するものの、最後はやはり学生の自ら成長する力を信じることに行き着く。彼らを信じ、学生一人ひとり異なる多種多様な歩みに対して、それを尊重、受容し、援助は最小限に傍らで支援していききたい、過剰な援助にならないよう十分に注意しながら。

3. 教育の方法

担当する科目の授業形態が講義もあれば、演習、実習もあり、さらに一人で担当するだけでなく、2人で担当、4人5人で共同して担当する科目もあって、その教育の方法は当然一様ではない。

ここでは、教員一人での講義科目「社会福祉」、教員3名で担当する演習科目「保育・教職実践演習（幼稚園）」、教員5名（4クラス）で担当する「実習指導Ⅰ」を特に取り上げ、シラバス上にある教育の方法の関連項目を以下に示す。

1) 社会福祉

配当年次： 2年次 開講時期：前期 単位数：2 授業形態：講義

免許・資格との関係：保育士資格必修

授業のねらいと到達目標	【ねらい】 社会福祉と現実の子ども家庭支援や保育がどう繋がっているのかを知るとともに、現代の社会福祉の考え方や体系を理解し、その法律や制度、専門的方法・技術など、子ども家庭支援や保育の現場にいかせる知識の獲得をめざす。 【到達目標】 保育者に必要な社会福祉の理念や概念、歴史、制度と法律、相談援助の理論や方法・技術、及び社会福祉における子ども家庭支援の方策について理解し、適用することができる。
授業の方法等	パワーポイントのスライドとプリントを使い講義形式で進めます。

2) 保育・教職実践演習（幼稚園）

配当年度： 2 年次 開講時期：後期 単位数：2 授業形態：演習

免許・資格との関係：保育士資格必修 幼稚園教諭免許必修

授業のねらいと到達目標	【ねらい】 幼稚園教諭・保育士として最小限必要な資質能力の全体について、確実に身につけるとともに、その資質能力の全体を確認する。 【到達目標】 学生が、教員・保育者となる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を各自で図る。
授業の方法等	講義、演習、ディスカッション、フィールドワーク、ロールプレイ、グループワークと多様な形式で進めます。また、ITCを活用した授業として、幼稚園・保育所・つどいの広場等での保育実践（フィールドワーク）などでは、その実践の様子をスマートフォン等でビデオ撮影し、その様子をプロジェクターに提示して改善点や工夫点等を議論するとともに、レポート提出はウェブアンケートシステムを利用するなど、双方向型授業を意図したものとします。

3) 実習指導 I

配当年度：1 年次 開講時期：前期 単位数：2 授業形態：演習

免許・資格との関係：保育士資格選択必修 幼稚園教諭 2 種免許状必修

授 業 の 概 要	主として「教育実習Ⅰ・Ⅱ」の事前・事後指導として、実習準備から実習終了に至る細部日程はもちろん、特に実務教員からその職務経験を生かした、実習に必要な態度、基礎的な知識や技術、たとえば観察のポイントや子どものかかわり方から、幼稚園におけるより実践的な指導法や指導計画の立て方や指導案の書き方までを学びます。
授 業 の ね ら い と 到 達 目 標	【ねらい】 主として教育実習Ⅰ・Ⅱを円滑に行うため、「記録」することを中心にして必要十分な実習に関する知識・態度、技術・能力を習得する。 特に事前指導では、実習生として幼稚園の教育活動に参画する意識を高め、取得すべき知識や技能等について知り、実習の意義を理解する。 【到達目標】 保育者であることを自覚し、基本的な実習態度を習得している。保育場面の適切な観察を行うことができる。観察をもとに振り返り・評価までの必要十分な実習日誌を作成できる。幼児の発達等をふまえて保育実践にも参与できる。
授 業 の 方 法 等	全体講義、グループ別の演習、ディスカッション、実技等多様な形式で進めます。

4. 教育の成果、評価

本学では毎年前期末と後期末に学生に対して授業アンケートを実施しており、ここでは2023年の授業アンケートの結果の一例として、「子ども家庭福祉」、「保育・教職実践演習（幼稚園）」、「キャリアアップセミナーⅣ」の結果を示す。このアンケートでは、問1：学生自身の取り組み、問2：授業の内容、問3：授業方法、問4：総合評価で、それぞれ5点満点でその評価を問うたものとなっている。

1) 子ども家庭福祉（単独の講義科目）

授業の内容と展開は前年と同じで、おおむね厚生労働省の保育士養成課程の教授内容に沿って、学生はスクリーンに映したパワーポイントを使った授業のスライドから、要点だけを授業プリントに書き写す、ノート書きをあまり必要としないフルプリント方式とした。毎回冒頭に「本時の課題」と「目次」を示し、おわりに「まとめ」を設けるよう努め、ある程度考えて書き込む要素も加えておいた。なお、シラバスには毎回の授業の予習、復習事項を付記した。

全般的に数値の改善傾向が見られた昨年にも増して本年は数値が上昇し、最低でも4.28ポイント、他の項目は概ね4.3～4.5ポイントと良好な結果となり、問4「総合評価」は4.45ポイントと、前年より0.2ポイント高い数値となったが、これも今年の全般的に良好な傾向を反映したものと考えられる。

自由記述では、良好な授業評価同様に肯定的といえるようなコメントが目立った。しかし、授業改善につながるような示唆に富むコメントあった。たとえば、「アクティブラーニングをもう少し取り入れていただき、学んだ内容について現場や業界の実際などの視点を交えて深く触れられるような取り組みもしていただきたいかった」などがあり、これらを参考に授業改善を考えたい。

表「子ども家庭福祉」2023 年授業アンケート結果

問1 あなた自身の、この授業への取り組みについて	平 均
1, 欠席または遅刻・早退をせずに受けましたか。	4.41
2, 私語を慎んで授業を受けましたか。	4.46
3, 授業の要点を配付プリント等にとっていましたか。	4.54
4, シラバスは授業内容や評価の基準等を知る上で役に立ちましたか。	4.46
5, 予習・復習及び技術向上のための努力をして授業に臨んでいましたか。	4.28
問2 授業内容について	平 均
1, 授業内容は、シラバスに示されていた学習目標と合致していましたか。	4.46
2, 授業内容のレベルは適切でしたか。	4.36
3, 授業の進度(速さ)は適切でしたか。	4.36
4, この授業を通じて知識が深まった、能力が高まったと感じますか。	4.44
問3 授業の進め方について	平 均
1, 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかったですか。	4.44
2, 授業の説明の仕方は分かりやすいものでしたか。	4.36
3, 授業中の板書やプロジェクター(パワーポイント等)の利用は適切でしたか。	4.31
4, 教材や資料はよく準備され、うまく活用されていましたか。	4.38
5, 教員は学生の質問に適切に対応し回答していましたか。	4.46
6, 学生の理解を深めよう、能力を高めようとする工夫や努力が感じられましたか。	4.49
問4 全体的評価	平 均
全体的に見て、この授業に対するあなたの評価はどの程度ですか。	4.45

2)「保育・教職実践演習(幼稚園)」(教員3名で1クラスの共担の演習科目)

本年度も、グループに壁面製作と、学内における保育実践のロールプレイを中心に授業を展開した。ロールプレイについては必ずビデオ撮影を行い、翌週に上映の機会を設け振り返りを行った。本年度も予定を告知し計画的にすべて上映した。

全般的に数値の改善傾向が見られた昨年にも増して本年は数値が上昇し、最低でも4.06ポイントとすべての項目で4.00ポイントを上回る結果となった。

問1「学生の授業への取り組み」でもすべて4点台でおおむね良好な結果と言える。また、問2「授業内容」及び問3「授業の進め方」も、すべて4.2ポイン

ト以上で、良好な結果であったと思われる。

問4「総合的評価」も4.30ポイントと昨年より0.3ポイント、大幅に上昇した。ロールプレイを行う際、その日程を厳守したことと、全員分の指導案を印刷配布したこと以外、授業の内容、展開、授業内容、授業の進め方に大きな変更は行わなかったことから、このことが影響したと思われる。

なお、自由記述では、「実践することが多く、学ぶことも多くグループワークでの作業で多く協力してできた」、「壁面製作やロールプレイの指導案をグループで協力して行ったことで、みんなとたくさんかかわりを持ててよかった」、「指導案の書き方を細かく教えてくれたり、アドバイスがあったおかげで何とか乗り切れました」、「ロールプレイで実際の保育が練習でき、ほかのグループの発表も見られてよかった」と肯定的なコメントが多く、教育方法・技術の総まとめであり、保育者としての能力・技術の確認や協働性の重要さの理解といった授業のねらいはよく達成できたように考える。

表「保育・教職実践演習（幼稚園）」2023年授業アンケート結果

問1 あなた自身の、この授業への取り組みについて	平均
1. 欠席または遅刻・早退をせずに受けましたか。	4.06
2. 私語を慎んで授業を受けましたか。	4.26
3. 授業の要点を配付プリント等にとっていましたか。	4.28
4. シラバスは授業内容や評価の基準等を知る上で役に立ちましたか。	4.20
5. 予習・復習及び技術向上のための努力をして授業に臨んでいましたか。	4.17
問2 授業内容について	平均
1. 授業内容は、シラバスに示されていた学習目標と合致していましたか。	4.28
2. 授業内容のレベルは適切でしたか。	4.39
3. 授業の進度(速さ)は適切でしたか。	4.22
4. この授業を通じて知識が深まった、能力が高まったと感じますか。	4.30
問3 授業の進め方について	平均
1. 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかったですか。	4.28
2. 授業の説明の仕方は分かりやすいものでしたか。	4.31
3. 授業中の板書やプロジェクター(パワーポイント等)の利用は適切でしたか。	4.22
4. 教材や資料はよく準備され、うまく活用されていましたか。	4.33
5. 教員は学生の質問に適切に対応し回答していましたか。	4.26
6. 学生の理解を深めよう、能力を高めようとする工夫や努力が感じられましたか。	4.37
問4 全体的評価	平均
全体的に見て、この授業に対するあなたの評価はどの程度ですか。	4.30

3)「キャリアアップセミナーⅣ」(2年生担任教員4名の共担の演習科目)

本年度の「キャリアアップセミナーⅣ」は、「子ども学ゼミナールⅡ」との授業日程と授業内容の組み合わせに入れ替えがあるなど開講日が複雑となったため、学生

からみると出席カウントが難しかったことは反省点である。授業の後半は、社会人のマナー講座や、ライフコースとキャリアプラン、働く際の基礎知識などの講義を行い、本来の進路指導も幾分行えたことは収穫であった。

自由記述では、非常に肯定的なコメントが多く、「進路のことをしっかり考える時間になった」、「就職してから大切なことをたくさん学べたのでよかった」、「就職、就活のことについてよくわかりました。先生方も寄り添ってくれて就活もスムーズに進みました」、「税金、保険、手当の話が役に立ちました」などとあり、授業の所期の目的はある程度達成できたものとする。しかし、「内定・未内定に関わらず同じ授業をしてほしい」、「授業日の移動で出席数が数えづらかった」など、至極もったもな指摘もあり、この点は改善が必要と思われる。

表「キャリアアップセミナーⅣ」授業 2023 年アンケート結果

問1 あなた自身の、この授業への取り組みについて	平均
1. 欠席または遅刻・早退をせずに受けましたか。	4.02
2. 私語を慎んで授業を受けましたか。	4.26
3. 授業の要点を配付プリント等にとっていましたか。	4.09
4. シラバスは授業内容や評価の基準等を知る上で役に立ちましたか。	4.23
5. 予習・復習及び技術向上のための努力をして授業に臨んでいましたか。	4.04
問2 授業内容について	平均
1. 授業内容は、シラバスに示されていた学習目標と合致していましたか。	4.23
2. 授業内容のレベルは適切でしたか。	4.19
3. 授業の進度(速さ)は適切でしたか。	4.26
4. この授業を通じて知識が深まった、能力が高まったと感じますか。	4.23
問3 授業の進め方について	平均
1. 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかったですか。	4.32
2. 授業の説明の仕方は分かりやすいものでしたか。	4.26
3. 授業中の板書やプロジェクター(パワーポイント等)の利用は適切でしたか。	4.25
4. 教材や資料はよく準備され、うまく活用されていましたか。	4.21
5. 教員は学生の質問に適切に対応し回答していましたか。	4.32
6. 学生の理解を深めよう、能力を高めようとする工夫や努力が感じられましたか。	4.25
問4 全体的評価	平均
全体的に見て、この授業に対するあなたの評価はどの程度ですか。	4.21

なお、問1「学生の授業への取り組み」では、すべて4点台で概ね良好で、シラバスが役に立った項目の評価は特に高く、今年度の授業日程と授業内容の組み合わせが複雑であったことを配慮して本科目専用のシラバス・授業予定表を配布したことが効果的であったと思われる。また、問4「総合的評価」も4.21ポイントと昨年とほぼ同じで、数値的には「授業内容」や「授業の進め方」と同じく概ね良好な評価であったと思われる。

5. 教育の改善に向けた今後の目標

1) ICT化に対応した教育の改善について

2021年度から本格導入された EduNavi システムについては未だ十分には使いこなせておらず、不慣れな私にとっては重要な課題と思われる。EduNavi の本来の機能を活用するなら、授業資料のアップロードや課題提示、小テスト、個別の質疑応答等多彩な活用が可能であるため、これらをぜひ活用した授業展開を目標としたい。

2) 個々の科目の教育の改善について（子ども家庭福祉）

短期的目標	①学生が学びやすい授業規律の確立(授業環境の整備) ごく一部の学生であっても、授業中の私語や、携帯電話の使用（HP 閲覧、メールやゲームなど）などは、他の学生の学習意欲や効果を大いに低下させるため、そうした行為を根絶し、学びに関する一定の規律が保たれた教室、授業をめざしたい。 ②学生が学びやすい授業内容 本科目の場合、厚労省より「教授科目の内容」として教授内容を細かく指示されているため自由度は低い。その中で、教授する内容を学生の想像力の範囲を想定しなら精選するとともに、福祉（サービス）のリアリティを新聞記事や映画を使ったフィクション・ノンフィクションの事例を活用することで学生に感じてもらい、関心・意欲を高めたい。 ③学生が学びやすいアクティブラーニングの導入 アクティブラーニングを取り入れて、グループディスカッション等から学んだ内容について現場や業界の実際などの視点を交えながら深く触れられるような取り組みを試みたい。
長期的目標	本科目は保育士養成課程における福祉に関する教科目の一つであり、そもそも保育士は福祉職であることから、授業を通した「福祉マインドの薫陶」こそ、最大にして長期的な目標といえる。 ある意味熱量のある授業によって、特に、「ノーマライゼーション」、「インクルーシブ」といった現代の福祉のコアとなる概念を学生一人ひとりが理解して、それを保育の営みの中で体現できるかたちで、身につけていけるよう希望している。

6. エビデンス一覧

- (1) シラバス (子ども家庭福祉、保育・教職実践演習(幼稚園)、キャリアアップセミナーⅣ)
- (2) 授業時配布プリント (子ども家庭福祉、保育・教職実践演習(幼稚園)、キャリアアップセミナーⅣ)
- (3) 授業使用パワーポイント・プリントアウト (子ども家庭福祉)
- (4) 試験問題 子ども家庭福祉筆記試験
- (5) 成績集計結果 (子ども家庭福祉)
- (6) 授業アンケート結果 子ども家庭福祉、保育・教職実践演習(幼稚園)、キャリアアップセミナーⅣ
- (7) 子ども学ゼミナールⅠ・Ⅱ実施要領、同ゼミナール登録の手引き、ゼミナール学習成果発表会実施要領
- (8) 学内就職説明会実施要領、進路体験報告会実施要領
- (9) キャリアサポートブック
- (10) キャリア支援センターだより

(2024/8/30 記)